



かがやく浜の子

令和2年度6月号

令和2年度重点目標 「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」

コロナ禍での「あさしおごはん」

人との関わりを良好に始めたり進めたりするために、「挨拶」はとても大切です。挨拶の「挨」には、「押す」「開く」という意味、「拶」には「迫る」「押し付ける」という意味があります。「挨拶」という言葉の起源は、禅宗で使われていた「一挨一拶（いちあいいちさつ）」であり、師匠が弟子に問答で悟りを試したり修行者同士で問答をしたりして、修行の深淺を図ることが、元々の意味であったようです。時が経つにつれて、日常生活にも用いられるようになり、相手の様子を聞いたり寒暖に関する言葉を交わしたりするなどの儀礼的な意味合いが生じてきました。言葉自身も「一挨一拶」から「挨拶」へと略され、お辞儀や受け答えなど、「人に近づき、心を開くときの言葉や動作」になったそうです。

白羽小学校で、脈々と受け継がれている相手を思いやる大切な挨拶の合言葉「あさしおごはん」があります。平成5年に生まれ、今年度28年目を迎えます。当時、小学校6年生だった方は、今年39歳になります。保護者の皆さんの中にも、白羽小学校で「あさしおごはん」に取り組まれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

長い「あさしおごはん」の歴史のなかでも、コロナ禍のような状況はなかったことでしょう。そういう中でも、この伝統は継承・発展させたいと思い、6月の朝礼（全校児童を集めることはできないため放送で実施）では、学校再開の喜びと共に子供たちに、「あさしおごはん」について、次のような話をしました。

今年度の目標、「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」になってほしいことを、二つお話しします。

一つ目は、毎日の授業に「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」です。（中略）

二つ目は、「あさしおごはん」に「チャレンジいっぴいかかがやきいっぴい」です。朝、校長先生にあいさつするとき、元気なおはよう、お辞儀つきのおはよう、止まっておはよう、目を見ておはよう、名前付きのおはようなど、気持ちの良い挨拶ができる子がたくさんいます。特に、6年生は、さすが、「あさしおごはん」を1年生から続けているだけあって、お手本となるような人が多いように思い、嬉しくなります。今年度も、元気なあいさつ、お辞儀つきのあいさつなど、自分ができそうなあいさつにチャレンジしましょう。

しかし、昨年度に「あさしおごはん委員会」の子供たちが行ったような、委員全員が並んでの挨拶タッチや、近距離でのマスク無しでの挨拶を交わすことはできません。そこで、今年度のあさしおごはん委員会の子供たちは、密を避けるために、



【あさしおごはん委員会】



【図書委員会】

役割分担し、毎日2、3人ずつが校門に立って、挨拶をよびかけように変更することを考えました。また、図書員委員会も図書館の利用を、学年ごとに曜日を振り分けるなどの工夫をしています。子供たち自身が、コロナ禍における学校生活の工夫をし始めていることに有難さを感じています。ありがとう！（「あさしおごはん」の「あ」）（文責 校長）